

5月20日 総務環境委員会 田口一登議員

## なごや新交通戦略推進プラン

# トランジットモールなど総合的な交通戦略が必要

5月20日に都市消防委員会が行われ、「なごや新交通戦略推進プラン(案)」について質疑が行われました。なごや新交通戦略推進プラン(案)は6月28日までパブリックコメントを行っています。

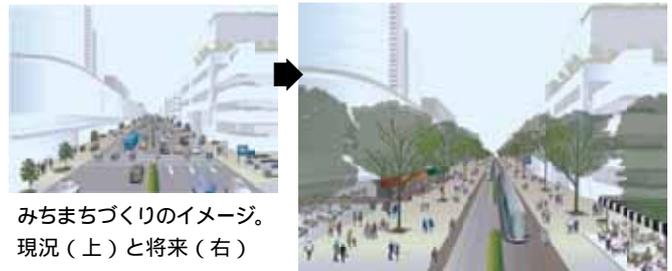
### 公共交通の比率はわずかに拡大

名古屋市では、徒歩・自転車・公共交通を中心としたまちづくりをすすめるため、交通問題調査会の答申を受け、今後取り組むべき交通政策などを示した、なごや新交通戦略推進プラン(案)を説明しました。

自動車交通と公共交通の割合が、2001年で「7:3」だったものが2007年調査で「64:36」となったことが明らかにされました。

### 大震災の影響をどう組み入れたのか

田口一登議員は、プランに掲げられた成果目標の設定の仕方や目標数値の妥当性について質問しました。「都心部の幹線道路を複数ブロックで車線減を伴った道路空間再配分の実施を行うとしているが、計画内にイメージ図のようなトランジットモール化をめざすの



みちまちづくりのイメージ。  
現況(上)と将来(右)

か。車線減だけ先行するのか」とただし、「1路線以上という目標だが、広小路ルネッサンスで失敗したことを別の路線でやるということか、単なる車線減ではだめだ」と指摘しました。

成果目標

目標	基本方針	成果目標			
		成果指標	現状値	数値目標	
				2015年度	2020年度
安心・安全で便利な交通	誰もが利用しやすい交通システムの実現	地下鉄の可動式ホーム柵の設置駅数(乗換駅は路線別に計上)	11駅 (10年度)	45駅	79駅
		公共交通を便利で利用しやすいと思う人の割合	63% (10年度)	70%	80%
環境にやさしい交通	安全を確保した交通環境の形成	歩行者と自転車の通行空間が分離されている道路の延長(累計)	61 k m (09年度)	85 k m	110 k m
		徒歩や自転車などで移動するときに安心・安全だと思う人の割合	32% (10年度)	45%	55%
まちの賑わいを支える交通	低炭素型交通体系の実現	市内の鉄道及び市バス1日あたり乗車人員合計	227万人 (09年度)	234万人	234万人
		移動手段を自家用車から公共交通機関や自転車に変えた、変えても良いと思う人の割合	67% (10年度)	75%	80%
まちの賑わいを支える交通	交通エコライフの推進	市内主要地点1日(平日)あたり自動車交通量の合計(45地点双方向)	147万台 (09年度)	134万台	127万台
		環境にやさしい行動を意識して移動する人の割合	55% (10年度)	65%	75%
まちの賑わいを支える交通	歩いて楽しいまちの創出	都心部の歩行者通行量(名古屋駅、伏見、栄、上前津付近の6地点合計)	54,602人 (09年度)	61,000人	63,000人
		まちを歩いて楽しいと感じる人の割合	47% (10年度)	60%	70%
まちの賑わいを支える交通	まちの活力を支える交通環境の形成	都心部の幹線道路について複数ブロックを含む車線減を伴った道路空間再配分の実施			1路線以上
		都心部を歩いている活気があり賑わっていると感じる人の割合	56% (10年度)	65%	75%

### これまでの経過と今後の予定

- ・2003年3月 交通問題調査会に諮問
- ・2004年6月 「なごや交通戦略」の答申
- ・2010年4月 交通問題調査会に諮問
- ・2010年12月 「なごや新交通戦略」答申
- ・2011年5月 総務環境委員会で説明
- ・2011年6月 パブリックコメント
- ・2011年7月 なごや新交通戦略推進プラン策定公表

### なごや新交通戦略推進プランの概要

基本理念：新たな交流社会を見据えて、安心・安全な環境にやさしい賑わいのあるまちの創造のために、まちづくりと連携した総合交通体系の形成をめざします。

#### 3つの目標

#### 6つの基本方針

安心・安全で便利な交通	誰もが利用しやすい交通システムの実現
	安全を確保した交通環境の形成
環境にやさしい交通	低炭素型交通体系の実現
	交通エコライフの推進
まちの賑わいを支える交通	歩いて楽しいまちの創出
	まちの活力を支える交通環境の形成